

「オープン API のあり方に関する検討会」(第 1 回) 議事要旨

1. 日 時：平成 28 年 11 月 2 日 (水) 10 時 ~ 11 時 45 分

2. 議 題：今後の検討の方向性について

3. 議事内容：主な意見は以下のとおり。

【議論の方向性】

- オープン API については最近世間の注目が非常に高まっている。そうした中で、幅広い関係者の方々とオープン API のあり方について議論できることは大変有意義である。
- お客さま、FinTech 企業、銀行において、Win-Win-Win の関係を構築することが重要である。これまで、銀行では、コンテンツを増やす動きが中心であったように思う。今後は、API という新しい技術の登場を契機として、銀行と FinTech 企業で連携して新しいビジネスを作っていければと考えている。
- 日本においては、FinTech 企業側にも、ユーザに良いサービスを届けるために金融機関と一緒にサービスを提供していくことが重要という考え方が多い。
- 従来の銀行のシステムをただ守っていくというところから、インターネットをうまく利用していくという世界に発想を切り替えることが重要。
- 全てのものがインターネットネットベースになる時代において、社会の中で経済の血液、もしくは全産業のインフラと呼ばれる「金融」がどういう姿であるべきなのかという視点を持って議論を行うことで、前向きな議論ができるのではないか。
- 本検討会のテーマの 1 つとして、利用者の利便性向上があるが、ここで指す「利用者」とは、比較的将来の利用者を意識、念頭に置いた方がよいのではないかと思う。
- 金融審議会・金融制度 WG において、利用者保護を図りつつオープンイノベーションに関する取組みを進める観点から、中間的業者の取扱いを含めて議論を進めているところである。本検討会における議論は、こうした議論とも連携して進めることも 1 つの視点だと考えている。

【セキュリティ・利用者保護と利用者利便性】

- オープン API を活用したサービスに信頼がなければ普及はしないと考える。
- セキュリティ原則は勿論のこと、利用者保護原則における責任の所在等については非常に重要な論点であると考えている。
- 日本の銀行に対する要求水準が極めて高いだけに、FinTech 企業にも企業倫理も含めてそれ相応の高いものが求められることは改めて認識いただく必要があるのではないか。
- 最近、銀行界は、サイバー攻撃への対応が経営の最優先課題であり、利用者利便と利用者保護のバランスを如何にとるかが一番の悩みどころである。
- FinTech 企業においても、セキュリティや利用者保護について、自主的にしっかり守っていこうという考えの下、FinTech 協会におけるガイドラインの策定など、先行して動いているところである。
- FinTech 業界は銀行界よりもバラエティに富んでいると考えられるため、セキュリティルールも、具体的なもの、バラエティのある FinTech 業界に相応しいものとする必要があるのではないか。
- 銀行界・FinTech 業界の双方の意見をよく聞き、銀行に限らず、FinTech 企業にも参考とされるセキュリティ基準の策定に向けてしっかりと取組みを進めていきたい。
- セキュリティ原則については、リスクの発生確率が高いのか低いのか、リスクが発生した時に影響度が大きいのかどうか、リスクが発生した後の対処方法はどのようなものか、パッケージとしてとらえることが重要ではないか

【仕様の標準化】

- API 仕様の標準化については、あまり過度な標準化を進めることで、逆にフレキシビリティが落ちる、あるいはスピード感を失うということもあるため、どこでバランスを取るかが非常に大きなポイントである。

以 上